



事業内容

1. データビリティ人材育成
2. データハンドリング

データリテリ人材育成講座

「実データで学ぶ人工知能講座」

1. 内 容 実データによる演習を通して、使える人工知能技術の修得まで
〔90分／コマ×60コマ〕
2. 場 所 グランフロント大阪 北館 Tower C 9F大阪大学 (Vis Lab OSAKA)
2. 対 象 人工知能の概念および技法を習得し、実世界の課題解決に使
いたい技術者 (機械系、電機系、情報理工系)
4. 受講料 「機械学習の基礎」 「自然言語処理」 「実践深層学習」各25万円
「知識情報学」35万円 「コンピュータビジョン」40万円
(科目別受講 2.5万円／コマ)



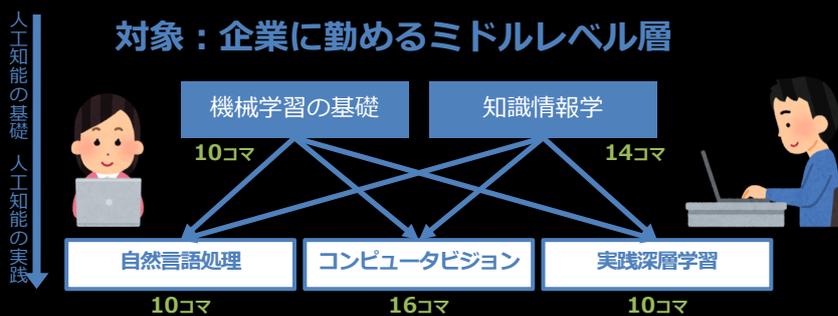
© 一般社団法人データリテリコンソーシアム 2020

2

データリテリ人材育成

3

対象：企業に勤めるミドルレベル層



【大阪大学産業科学研究所】

- 駒谷 和範 教授
- 福井 健一 准教授
- 槇原 靖 准教授
- 村松 大吾 准教授
- 原 聡 助教
- Matthew J. Holland 助教

● 【大阪大学データリテリフロンティア機構】

- 長原 一 教授
- 岸本 充生 教授
- 中島 悠太 准教授
- 新岡 宏彦 特任准教授
- Chenhui Chu 特任助教
- 梶原 智之 特任助教

講師は全て「国際的な情報科学の先端に位置する若手研究者」から構成。
よくあるAI人材育成事業とは異なり、第一線のAI研究者による講義と様々な質問が可能。

1. 実データにもとづく人工知能講座(2020年度コース)

土曜集中コース 【申込締切】5月コース:3月31日 / 11月コース:9月30日

- **開講時期** 2020年 5月開講 (5月9日～8月29日の土曜日)
2020年11月開講 (11月7日～2月20日の土曜日)
1時限(10:30～12:00)、2時限(12:50～14:20)
3時限(14:30～16:00)、4時限(16:10～17:40)
 - **場 所** グランフロント大阪 北館タワー C9F
 - **内 容** 実データによる演習を通して、使える人工知能技術の習得を目指す短期集中コース
- 1科目から受講可能 ▶ 「知識情報学」「機械学習の基礎」「コンピュータビジョン」「実践深層学習」「自然言語処理」
- **定 員** 各科目25名程度

© 一般社団法人データリテリコンソシウム 2020

4

2. ビジネスAI講座〔新コース〕

(主催:一般社団法人データリテリコンソシウム, 一般社団ナレッジキャピタル)

- (1) **開講日** 2020年4月18日(土) 【申込締切】4月4日
講義 10:30～18:00 自由討論 18:00～19:00
- (2) **場所** グランフロント大阪 北館 ナレッジキャピタル
- (3) **対象** 各企業 事業部長クラスなど(20名)
- (4) **スケジュール**

| | | |
|-------------|------------------------|---|
| 10:30～10:45 | ビジネスAI講座の紹介 | |
| 10:45～12:15 | AIとデジタル変革 | 栄藤稔(大阪大学 教授、株式会社みらい翻訳 社長、株式会社コトバデザイン 社長) |
| 12:15～13:00 | 食事・ネットワーキング | |
| 13:00～14:30 | AI技術と歩む未来—製造業における挑戦と課題 | 浦本直彦(三菱ケミカルホールディングス Chief Digital Technology Scientist、人工知能学会 会長) |
| 14:45～16:15 | DX—フジテック情報システム部門の変革と挑戦 | 友岡賢三(フジテック株式会社 常務執行役員デジタルイノベーション本部長) |
| 16:30～18:00 | AI/IoTを活用する企業のあり方 | 栄藤稔 |
| 18:00～ | 軽食による懇談会・フリーディスカッション | |

© 一般社団法人データリテリコンソシウム 2020

5

データハンドリング事業



© 一般社団法人データビリティコンソーシアム 2020

6

ライフデザイン・イノベーション研究拠点

目的
(ゴール)

身体の健康のみならず、心の健康、人々とのコミュニケーションがうまく取れているといった社会的な健康、快適な居住環境が得られているという意味での環境の健康を同時に考え、人生のQOLの向上をデザインする

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

理化学研究所



© 一般社団法人データビリティコンソーシアム 2020

7

プロジェクト

- **PLRプラットフォーム**
 - ・情報システム基盤プロジェクト
 - ・行動センシング基盤プロジェクト
 - ・社会技術研究プロジェクト
- **PLR収集&実証フィールド**
 - ・実証フィールド整備プロジェクト
- **PLR活用ソリューション**
 - ・保健・予防医療プロジェクト
 - ・未来の学校支援プロジェクト
 - ・健康・スポーツプロジェクト
 - ・共生知能システムプロジェクト
- ・グランドチャレンジ研究プロジェクト
- **人材育成**
 - ・データビリティ人材育成プロジェクト

- スポーツグラウンドのスマート化
- 生誕1000日（妊娠から2才）見守り研究
- 虚弱高齢者見守り研究
- 心不全患者見守り研究
- スポーツ外傷障害の予防・予知研究
- 熱中症の予兆検知と改善研究
- 「ひきこもり」の予兆検知と改善研究
- 学生の教育・生活支援研究
- 対話型ロボットによる高齢者の健康維持研究
- 対話型ロボットを用いた快適環境の実現研究
- 17都道府県から29課題

- AI人材育成講座、ビジネスAI講座

© 一般社団法人データビリティコンソーシアム 2020 8

パーソナル・ライフ・レコード (PLR)

PLR (パーソナル・ライフ・レコード)

PHR
(パーソナル・ヘルス・レコード)

EHR (医療機関で発生した個人の診療記録) + 個人の社会生活で発生する健康データ

身長、体重、血液型、バイタル情報、アレルギー、副作用、既往歴・症状、診療、投薬、ケアプラン、検診、保険関連情報等

日常生活で発生する個人データと生活環境データ

- 顔、姿、表情、行動、発話の計測データ、日記等の記録データ
- 嗜好、趣味、五感、性格等
- 位置、場所、活動状況、イベント、環境データ等

PLR
パーソナル・ライフ・レコード

人間B
人間C
人間D

社会

個人(人間A)

健康と日常生活データの連結

© 一般社団法人データビリティコンソーシアム 2020 9

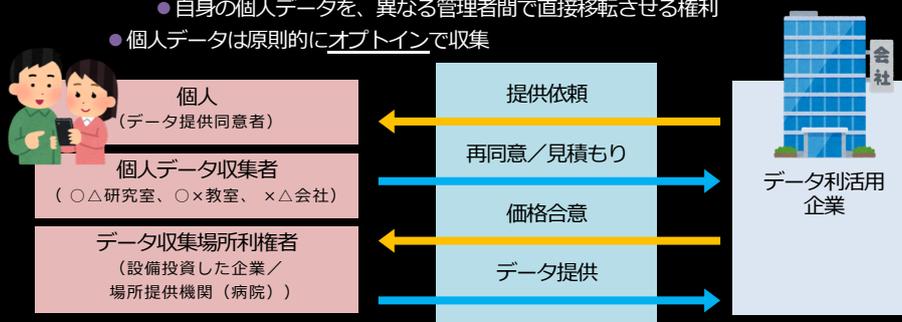
本事業が目指す、最終目標

パーソナルデータの商業二次利用を可能とする、市場取引型情報基盤としてのPLRプラットフォームの国内初の実現

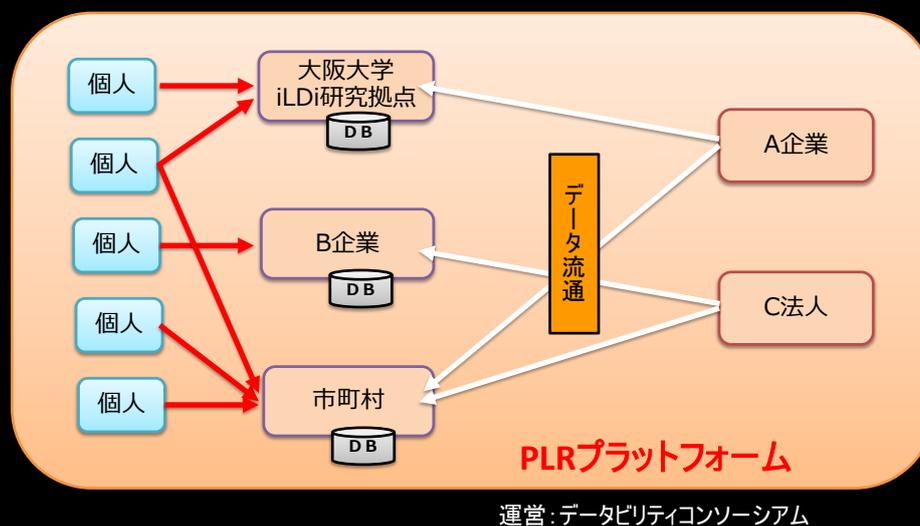
- ① 付加価値の高いパーソナルデータにフォーカスし、質・量が伴う形でデータ収集すること
- ② 収集したパーソナルデータを安全に商業二次利用できる基盤の構築
- ③ 安心してパーソナルデータを扱うことのできる社会技術の構築
- ④ 当該基盤を社会実装し、パーソナルデータを活用してのマネタイズの仕組みを示し、民間企業の意識改革を加速し、世界のデファクトに発展させること

データポータビリティ権

- 「EU一般データ保護規則」(General Data Protection Regulation; GDPR) に定められる「データポータビリティ権」に準拠
 - 「データポータビリティ」とは、あるサービスが特定のユーザーに関して収集・蓄積した利用履歴などのデータ（以下「個人データ」という）を他のサービスでも再利用できること。
 - 個人データの管理者に対して行使可能な、以下の各権利を指す。
 - 自身の個人データを、その管理者から一定のフォーマットで受け取り、他の管理者に移転する権利
 - 自身の個人データを、異なる管理者間で直接移転させる権利
 - 個人データは原則的にオプトインで収集



PLRマネタイズモデル



© 一般社団法人データビリティコンソーシアム 2020

12

オープン・クローズ戦略のすすめ - 価値の高いデータの共創 -

GAFに勝つこと、そのために、共創によるデータ創生
1 大学、1 企業ではできないイノベーション

データカタログは、オープン。どうしても渡したくない場合はデータの非提供が可能

データ希望はクローズ 欲しいデータはソリューションを物語る。誰がどんなデータを求めているかは、非開示。コンソーシアムがクローズに拠点と連携

データ連携による企業連携を希望する場合は、コンソーシアムが連携調整、仲人役

13

PLRプラットフォームへの参画形態

- 1 利用の立場
(データ、フィールド、API、ツール)
- 2 提供の立場
(装置、設備、フィールド、技術、データ)



PLRプラットフォーム参加には、情報セキュリティ等、研究拠点が用意するデータマネジメント基本方針に準拠した体制を用意する必要あり。コンソーシアムにおいて、体制整備の確認によりプラットフォームに参加可能

コンソーシアムによるコーディネート

- 1 共同研究
研究プロジェクト内容の紹介
学術相談
連携可能なプロジェクトとの対話
民間企業からのヒアリングに基づく、データ取得
- 2 データ&フィールド利用
フィールド、設備紹介
データカタログ提供
- 3 プロジェクトメンバーと賛助法人会員との懇談会の企画



データリテリコンソーシアム

<https://cds.or.jp/index.html>